

↓学生が開発した品々。野菜の味力(みりょく)を味わえます。



野菜のアイデアメニュー みよし野菜癒しのレシピ試食会

9月8日(金)、中央公民館で行われたみよし野菜癒しのレシピ試食会。みよし野菜ブランド化推進研究会と淑徳大学栄養学科のコラボメニューが今年も完成しました。なすのひき肉サンドやにんじん餃子、芋掘りペペロンチーノなどの和洋中メニューに加え、絶妙な甘さのさつまいも白玉、いもロールケーキなどのスイーツも開発。11月より福祉喫茶ハーモニーで提供予定です。

↓ APSS の生徒と引率教員、ホストファミリーの皆さんと共に。



協定書で永遠の友情を宣言 マレーシア APSS 親善訪問団来町

9月4日(月)～8日(金)の期間、マレーシアのアジアパシフィックスマートスクール (APSS) から生徒10名と教員1名が三芳町を訪問し、町内の中学校やホストファミリーと交流しました。9月5日(火)に三芳町役場と議会の表敬訪問が実施されました。APSS と三芳町の友好関係と交流事業の継続、永遠の友情を謳った協定書を締結し、さらなる国際親善と交流を宣言しました。

↓表敬訪問をした和太鼓奏者「鷹-TAKA-」さん。



打入魂！響く和太鼓 和太鼓奏者「鷹-TAKA-」さん

8月30日(水)、三芳町在住の和太鼓奏者「鷹-TAKA-」さんが三芳町長を訪れました。家族の影響で幼少の頃から和太鼓の魅力に取りつかれたという鷹-TAKA-さん。「暁」という和太鼓チームで今年6月に受賞した文部科学大臣賞を筆頭に、これまで華やかな受賞歴があります。「地域での活動にも力を入れたい」と、今後の展望について熱く語ってくれました。

↓ひ孫さんも一緒に100歳の記念を祝った奈良さんとご家族の皆さん。



祝100歳！長年の功労に感謝 内閣総理大臣から祝状と記念品

厚生労働省では、100歳を迎えた人の長寿を祝い、長年社会の発展に寄与したことを感謝し、高齢者福祉に関心と理解を深めることを目的に、内閣総理大臣から祝状と記念品を贈呈しています。三芳町では今年度7人が100歳を迎え、町長が一人ひとりを訪視し、祝状と記念品を手渡しました。町では食や運動を通じて健康長寿をめざす取り組みを今年度も引き続き行っています。

モンゴルと日本の児童絵画交流を続けてきた功績が評価され、2017年モンゴルのウランバートル市バヤンゴル区の名誉区民に表彰されました。



16年間モンゴルと絵の交流 熊倉 雄二さん Yuji Kumakura

モンゴル取材旅行中に持ってきた画材を寄付したことからはじまった、モンゴルと日本の児童絵画交流。長年続けてこられたモンゴルと日本の交流について、お話を伺いました。

毎年交流しているモンゴルのガルバン・タミル校では毎回歓迎会が開かれ、第二のふるさとに帰ってきたような、温かい気持ちになるそうです。「子どもたちが歌や踊りで盛大に歓迎してくれるのが、とても嬉しい」
モンゴルの子どもが描く絵の特徴は、原色を使うことが多いこと。表現に限られてしまいがちですが、熊倉さんがやわらかい薄い色を使うようにアドバイスしたところ、絵の表現の幅が広がったといいます。また、日本の子どもたちは、モンゴルの小学生が描く広々とした草原や、家庭の食事風景を

第二の故郷モンゴルで 温かい歓迎

お返しに、絵のプレゼントが届きました。出身地の新潟市立丸山小学校にその絵を寄贈したところ、大変喜ばれ、それがきっかけでモンゴルと日本の小学生の絵画交流が始まり、今年で16年目を迎えました。
モンゴルでは、絵画指導だけではなく、小学校の修繕もします。また、現地の人々と交流を深めるため、宿泊もホテルではなく、一般家庭にホームステイをします。

見て、モンゴル語が分からなくても絵から相手を理解しているといえます。今後は三芳町の幼稚園とモンゴルの絵画交流も進めていきたいそうです。

絵画展を開催

熊倉さんが描く油絵の絵画展を役場庁舎2階の展示スペースで開催します。この機会に美しい風景画の世界をお楽しみください。
期間：10月16日(月)～11月30日(木)

➤ PROFILE
熊倉 雄二
Yuji Kumakura
くまくら ゆうじ
/1939年生まれ。
油絵画家。武者小路賞、銀座絵画展金賞など受賞歴多数。個展も多数開催。大調和会常任委員。



7月7日(金)、林町長を訪視され、これまでの活動とウランバートル市バヤンゴル区名誉区民の表彰を報告されました。

「絵は言葉」言葉が通じなくても絵を通して相手のことを理解できる。

町長の
まち・ひと・しごと
魅力発見

贈った画材のお返しに 絵のプレゼント

「交流のきっかけはモンゴルの小学生にももらった絵のお返しでした」と話す熊倉さん。三芳町北永井在住で風景画の油絵画家です。
2002年6月頃、JICA(国際協力機構)の日本とモンゴルの

技術協力の一環で、モンゴルが日本の学校制度を学ぶ事業に参加。現地の人の案内で、ゴビ砂漠を取材して夕日を描こうとしました。空気が日本より澄んでいて透明に近い夕日の色がどうしても描けず、日本から持ってきた画材が余り、モンゴルの小学校に寄付すると、その年の秋に小学校から